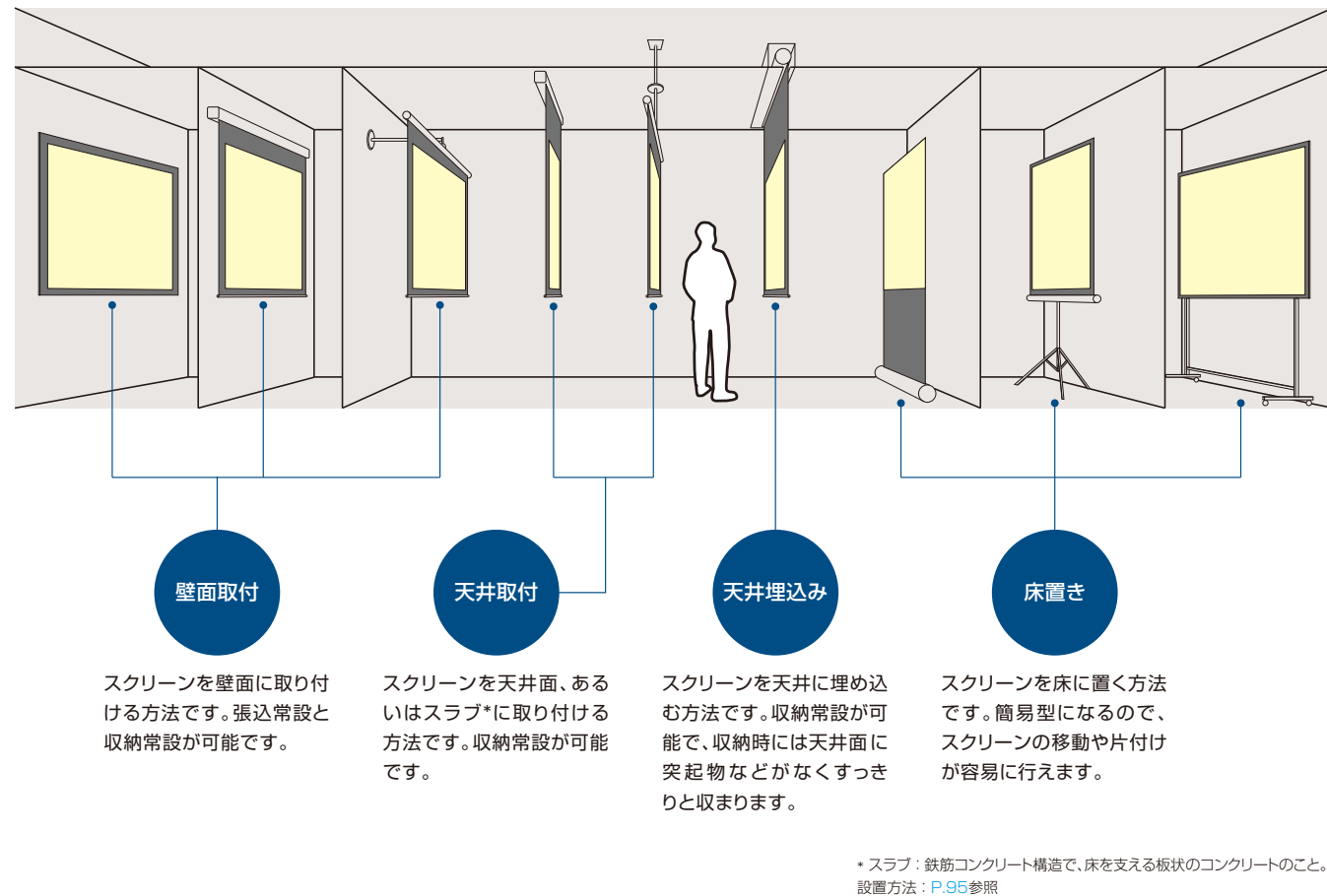


- 1 スクリーンを設置する場所を決めます
- 2 スクリーンのサイズを決めます
- 3 スクリーンの設置方法を決めます
- 4 スクリーンの生地を決めます

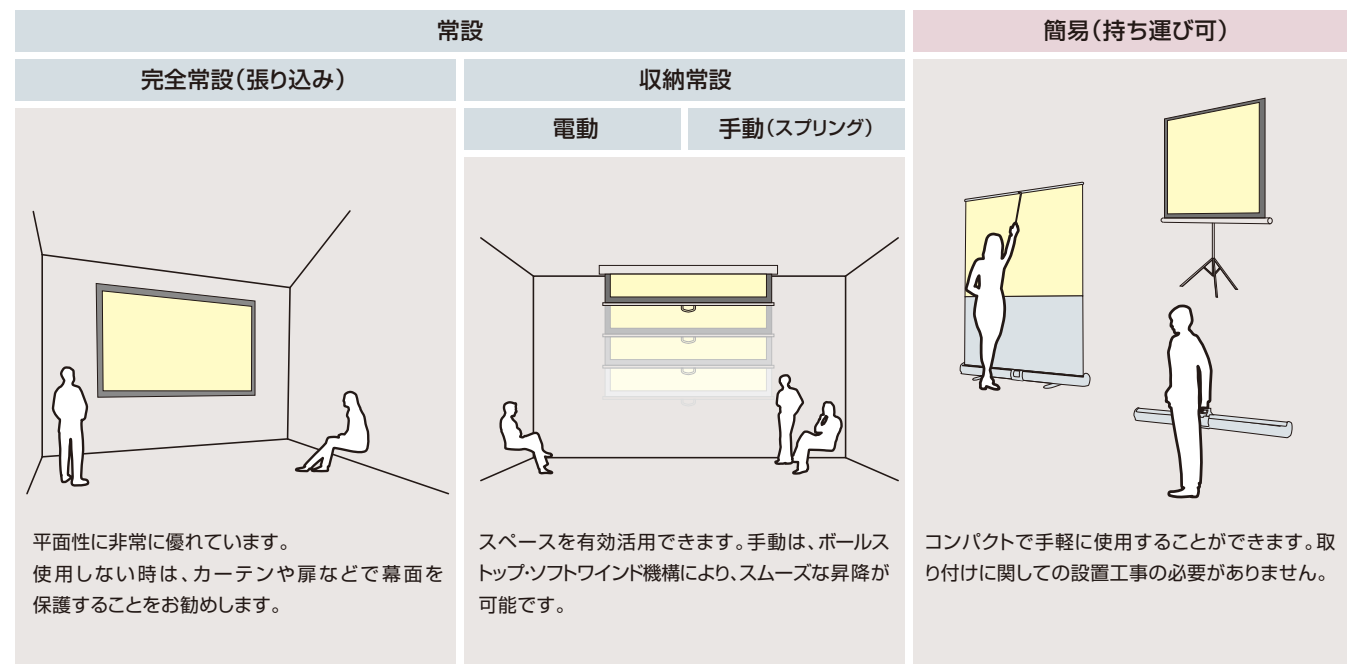
スクリーンの設置方法

設置方法を工夫することで壁面スペースに関わらず取り付けられる場合もあります。設置場所や、使用頻度に応じてスクリーンの取り付け方法を決定します。



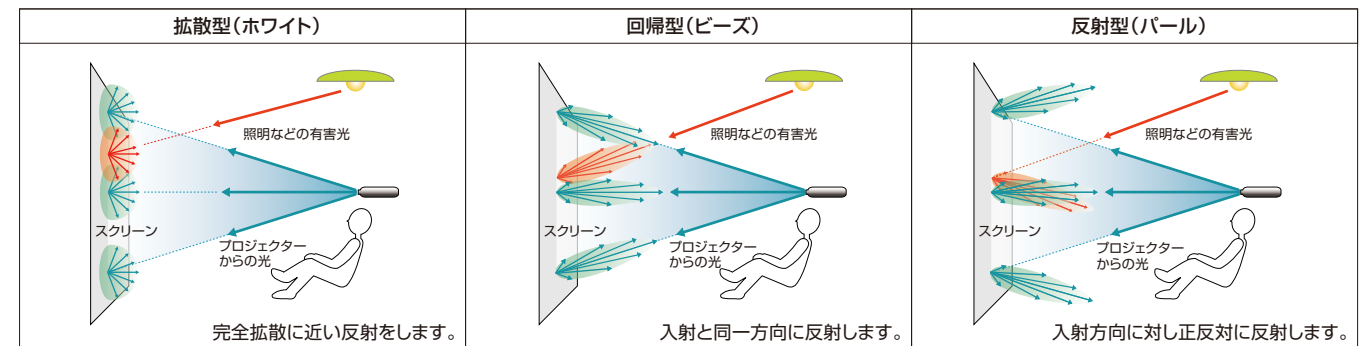
スクリーン収納方法

スクリーンの収納方法は大きく3タイプに分けられます。スクリーンを使用していない時の設置場所の利用の仕方、使用頻度などに応じてどのタイプが最適かを選択します。



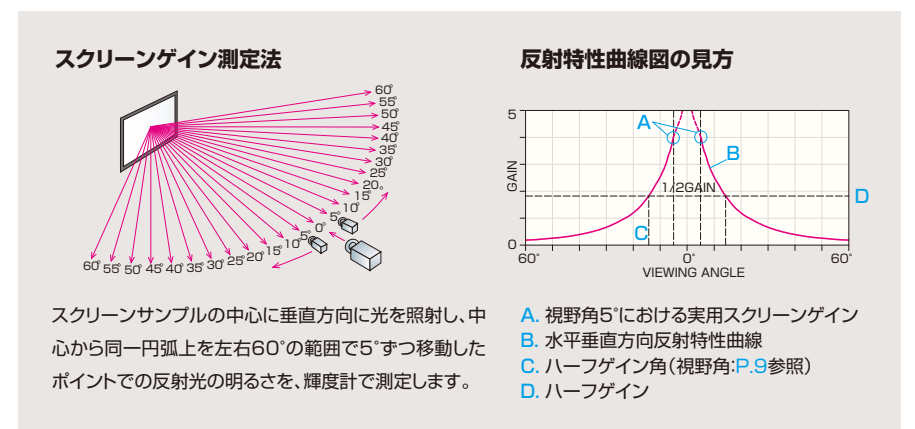
スクリーンの反射特性

スクリーンの反射面の生地は大きく分けて拡散型、回帰型、反射型の3種に分類されます。それぞれの反射特性をうまく利用して最適な映像環境を設定していくことが重要です。 ※スクリーンの生地特性による光の反射角度は、垂直方向・水平方向に同じ性質を持ちます。



スクリーンゲイン

スクリーン生地が固有に持っている反射特性を数値で示したもので、スクリーンの特性を示す重要な要素となります。理論的には標準白板と呼ばれる完全拡散板(酸化マグネシウムを焼きつけた純白板)に光を当てたときの輝度を1とした場合、同一条件下でのスクリーン生地の輝度との比率を表しています。



フルハイビジョンに最適なスクリーン「ピュアマットIIplus」(拡散型)

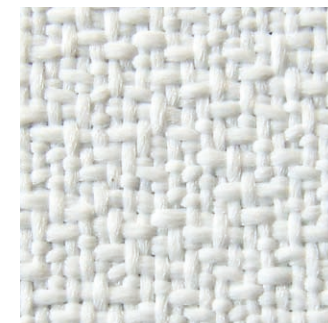
オーエスクリーンが2000年に生み出したスクリーン「ピュアマット」は、アナログハイビジョンを背景に、高画質映像の時代を先取りし、開発されたスクリーン生地です。2002年「ピュアマットII」そして2003年「ピュアマットIIplus」と進化し、ハイビジョン時代に相応しいスクリーンが完成しました。

フルハイビジョン映像の大敵は「モアレ」です。モアレとは一定のパターンとパターンが重なったときに起る干渉パターンのことです。ハイビジョンの高精細プロジェクターの映像を構成する光の点(画素)と、スクリーンが光を拡散させるために加工している表面の凹凸がモアレの原因となります。このパターンをわざと発生させてデザインに利用する場合もありますが、プロジェクターとスクリーンの関係では、鑑賞の邪魔になるだけです。ピュアマットIIplusの幕面を構成するのは、ランダムに織られた特殊な繊維。この織りの不規則性が、モアレを抑え、光を均一に拡散させ、より広範囲に偏りの無いナチュラルで高精細な画像を再現させます。

ホームシアターで高い評価を受けているピュアマットIIplus。ぜひ様々なシーンでお使いください。

高精細なフルHD時代を迎え、改めて注目されるフルHD用スクリーン

ピュア・マットIIplus



ピュア・マットはヨコ・タテに特殊な繊維をランダムに織りあげて、スクリーン生地として開発した織物(ファブリック)です。この不規則性がモアレを抑え、光を均一に拡散させ、高性能フルハイビジョンプロジェクターに最適のスクリーンとして評価されています。

WF202 ■5°ゲイン0.8±10% ■ハーフゲイン角60°以上

